課名 保健センター

令和3年度に実施した食育関連事業から1件紹介。

事業名	第3次射水市食育推進計画の普及啓発	計画上の	I - 1 - 4
尹禾石		分類番号	II - 3 - ①②
実施時期	通年	実施主体	保健センター

心身ともに健康で、生涯にわたって生き生きと暮らしていくためには、乳幼児から高齢者まで、 それぞれの年代に応じた継続的な食育の推進が重要である。そのため、第3次射水市食育推進計 画の重点項目である、「ライフステージに応じた食育」を中心に、市民への普及啓発を行った。

- ・射水市食生活改善推進員を対象とした伝達講習研修会の実施(3回、食改100名)
- ・各地区における食改伝達講習の実施(23回、371人)
- ・いみずケーブルネットワーク「射水市ぱくぱくクッキング」の放映・周知(年4回)
- ・射水市ホームページ「いみず食育ひろば」を開設
- ・広報6月号に掲載

食改研修会の様子



目的

内容

結果



ホームページ「いみず食育ひろば」



「射水市ぱくぱくクッキング」 LINE 配信



令和3年度より LINE 配信にて住民へ周知開始。 視聴数が50件程度から150~200件程度に急増した。

課名 学校教育課

事業名	とやま呉西	圏域連	車携事業呉西圏域ブランド	計画上の	I - 2 - ③
事 来 名	育成事業			分類番号	Ⅲ - 7 - ①
実施時期	令和3年11月24日、25日		実施主体	射水市給食センター、各 小中学校	
	「とやま呉西圏域連携事業呉西圏域ブランド育成事業」において、圏域内の農産水産				
	物を使った共通の献立を学校給食で提供し、「呉西」と特別感をだす「豪勢」をかけ、				
	「呉西(ゴーセイ)な日!!」としている。令和3年度は11月24日、25日のいずれか				
1日に「「呉西(ゴーセイ)な日!!」の特別給食を実施した。地場産食				た。地場産食材を学校給食	
	に使用する	ことで	で、児童生徒のみならず保護	者も地場産物に	興味を抱くようになり、現
	時点及び児	是童生征	走が成長した後の将来的な均	也場産物の消費加	太大につながることが期待
	される。				
	献	<u> </u>	表 	1	,
	月	日	献立名	食材名	産地
	11/24		・牛乳	牛乳	富山県
	11/25	木	・ハトムギ入りしそごはん		射水市
取組内容				ハトムギ	小矢部市
目的			・ゴーセイなメンチカツ	キャベツ	射水、高岡、小矢部
内容				玉ねぎ	<mark>射水</mark> 、氷見、砺波、小矢
結果			LL - 11 - 18	豚肉	部、南砺
			・枝豆サラダ	<mark>枝豆</mark>	射水市
			・氷見うどん汁	氷見うどん	氷見市
			・6市ミックスゼリー	なし果汁	射水市
				りんご果汁りんご果肉	高岡、氷見、砺波、小矢部 南砺市
				りんこ未内	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1

課名 保険年金課

事業名	みんな元気教室	計画上の 分類番号	П - 4 - ④
実施時期	令和3年5月~令和3年12月	実施主体	保健年金課・地域福祉課
取組目内結內的容果	〈目的〉外出の機会が少ない高齢者等が自分の健康状ることができるように支援する。また、必要〈実施方法〉・1カ所×2回コースのフレイル予防講座(み4年かけて開催することを協議。・初年度として7地区の地域振興会(8カ所法等について決定。〈教室内容〉・保健師・管理栄養士・理学療法士によるフ・初回と5か月後の2回「フレイル度チェッ把握。その後参加者全員へ結果説明と個別相〈実施結果〉・実施回数:16回(8カ所×2回)・参・2回参加者:84名(75歳以上48名、75歳・2回参加者(75歳以上48名)のフレイル、	な医療や介護サースを表表を含える。	ービス等につなぐ。 を、市内 27 地域振興会で を、市内 27 地域振興会で 室の日程や対象者の選定方 建康教育 齢者質問票」で健康状態の (延べ 199 名) :

課名 子育て支援課

事業名	子育て支援センター栄養講座	計画上の	II - 5 - 3
学 未石		分類番号	
実施時期	通年(月1回実施)	実施主体	子育て支援課
東施時期 和目内結 内的容果	通年(月1回実施) 支援センター利用者を対象に、 的に、ミニ講義と個別栄養相談を 乳幼児期は食習慣の基礎をつく ほしい食習慣を月毎に選び、ミニスの感染状況により行えない月も 一を学び、楽しく食べる子どもを 具体的にわかりやすいように利用 個別栄養相談では、子の月齢に 個々に応じた情報の提供を行いま園にむけ具体的な食事の進め方が 減り、みんなどのように作ってい 子育て支援センター栄養講座に 行え、子どもの成長に応じた食事 大きの食品でして 大きのを表すまます 大きのの食者でして で で 大きのの食者でして で で 大きのよい食事について で 大きのよい食事について で 大きのもいきつ、スプーンや箸の持ち 方、食べる姿勢について 大きのの食者、回飲、日安量、おすすめ おやつについて おやつにの意義、回飲、日安量、おすすめ おやつについて おやつについて おやつについて おやつについて おやつについて おやつにの意義、回飲、日安量、おすすめ おやっについて おりについて はりについて はりについて	離乳食のすすめ方やおやつ実施しています。 表大事な時期になることが、 講義を行っています。 ありましたが、家族そろっつ育てることを目的に実施しる 者へ説明しています。 本でもことを目的に実施しる 者へ説明しています。 本でも、参加者は、保育園入園では、保育園入園では、保育園入園では、保育園入園では、保育園入園では、一般をしたのか知れて安心した」と参加してもらえることで、 あか知れて安心した」と参加してもらえることで、 まに対する機関のと言句、大切な農産があります。 **にたけます。 または、またのとかでありまた。 またがする機関のと言句、大切な農産があります。 または、おきまたのとおりまた。 またが、またのとかできるように、またが、またのとかできるように、またが、またのとかできるように、またのとのできるように、またのとのできるように、またのとのできるように、またのとのできるように、またのとのできるように、またのとのできるように、またのとのできるように、またのとのできるように、またのとのできるように、またのとのできるように、またのとのできるように、またのとのできるように、またのとのできるように、またのとのできるように、またのとのできるように、またのとのできるようには、またのできるようには、またのできる。またのできるようには、またのできるようには、またのできる。またのできるようには、またのできる。またのできる。またのできるまたのできる。またのできる。またのできる。またのできる。またのできる。またのできる。またのできる。またのできる。またのできる。またのできるまたのできる。またのできる。またのできる。またのできるまたのできる。またのできるまたのできる。またのできんのできる。またのできんのできんのできんのできんのできんのできんのできんのできんのできんのできん	について、知識の普及を目 ら、乳幼児期に身につけて 講義は、新型コロナウイル て食卓を囲み、食事のマナ ました。配布資料を使用し、 、食事量、味付けについて 園で他のママと話す機会が 言った声が聞けました。 食に関する専門的な支援が す。 →配布資料 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

課名 農林水産課

	,				
事業名	チャレンジ農業体験	計画上の	III - 7 - ②		
子 八 口		分類番号	Ⅲ - 9 - ②		
実施時期	令和3年12月4日	実施主体	射水市農林水産課、JA いみず野 青年部、JA いみず野女性部、射 水市農業再生協議会		
	市内の小学5、6年生45名を対象に、農	作業体験を通じ	農業を身近に感じてもら		
	うことを目的として実施しました。				
JA のカントリーエレベーター施設等の見学や、ブロッコリーやネギの調整					
	 詰め作業を体験し、作業終了後は、JA いみ	ず野女性部お手	製のお弁当をいただきま		
	した。				
			The Market of the Control of the Con		
		AUSTE	1 1 TO		
			The same of the sa		
取組内容	No. of the last of				
目的					
内容		- 16			
結果					
		3			

課名 観光・定住課

		T	1
事業名	きときといみず大漁まつり	計画上の 分類番号	Ⅲ - 7 - ③
実施時期	R4.1.24~R4.1.30	実施主体	市(港湾・観光課)
取組目内結內的容果	富山県アンテナショップ「日本橋とやま館」ウンジ「トヤマバー」の協力のもと、射水市の上質特選おつまみを限定で提供し、射水市の上質信した。 ランチは1週間で52食、ディナーは3日間アンケート結果より、きときといみず大漁ま中46人であった。	 内のレストラン 童の特選食材を使 な食の魅力や豊 で 48 食提供した	度用したランチやディナー、 富な天然食材を首都圏に発 。

課名 環境課

事業名	フードドライブ	計画上の	III - 9 - ①
実施時期	1回目 4月16日(金)~18日(火) 2回目 2月4日(金)~6日(日)	<u>分類番号</u> 実施主体	市 (環境課)、射水市社会 福祉協議会、アルビス
	食品ロス削減の取組として、家庭で余っている福祉団体等に無償で提供する「フードドス株式会社と締結している包括連携協定に基※フードドライブは食品ロスを減らすだけで定している SDGs においても「すべての人に等、複数の課題に貢献する活動である。	ライブ」を実施 づき実施する取 ななく、社会課	した。この活動は、アルビ 組である。 題に対し17のゴールを設
	1回目 137名 2回目 117名 【提供食品数】		
取組内容 目的 内容 結果	1回目 1,286品 312.8kg 2回目 1,170品 199.8kg		
		INTIMOR INTERPRETATION OF THE PARTY OF THE P	